



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第43号(R5. 1. 13)

新専門委員長の決意表明 Part2

生徒会の新しい専門委員長が誕生しました。今回は環境委員長と保健委員長の抱負です。しっかり受け止めましょう。

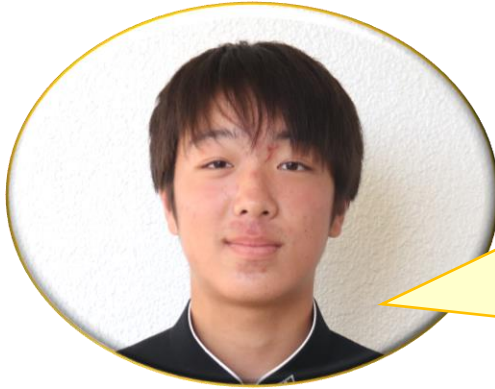
【 環境委員長 吉武 晴乃 さん 】

環境委員長になりました吉武晴乃です。不安もありますが、一年後の学校がどんな環境になっているのか楽しみでもあります。私は、環境は私たちがつくるのだけど、環境もまた私たちを育てると思います。学校の環境が私たちにいい影響を与えてくれるようにみなさんと日頃の掃除から丁寧にしていきたいです。環境委員長として過ごしやすい環境をつくるための取り組みを考え、そして「楽しく環境をつくる」を目指します。一年間よろしくお願ひします。



【 環境委員長 銀 慶祐 さん 】

こんにちは、この度新しく環境委員長になりました銀慶祐です。突然ですが、みなさんはもう今年の目標は決まりましたか？自分の環境委員長としての目標は、「生徒一人一人が過ごしやすい整った環境をつくる」ということです。この目標にした理由は、身の回りの環境が整うと心に余裕が生まれ、心に余裕が生まれると、自然と「笑顔」が増え、河東中全体が明るくなっていくと考え、この目標を立てました。初めての経験なのでうまくいかないこともあると思いますが、一年間全力で頑張ります。よろしくお願ひします。



【 保健委員長 林 里美 さん 】

私が委員長になると決めた理由は、今までやってこなかったことに挑戦したいという気持ちと、自分の力でよりよい学校を作っていくという気持ちがあったからです。今回私は、保健委員長として学校を引っ張っていく立場になりました。だから保健委員長としての目標を「けがや具合が悪く、保健室に来る人を昨年よりも減らす」にしました。そのために、みんなが換気をしようと思えるようなわかりやすい放送を心がけていきます。また、みんなが少しでも安全に過ごせるように引き続き爪チェックを行っていきます。この目標が達成できるように、信頼される保健委員長を目指していきます。



【 保健委員長 藤井 大希 さん 】

こんにちは。保健委員長になりました8年4組の藤井大希です。今、僕は保健委員長になれてとてもうれしいです。これから一年間で、みんなには手洗いうがい意識をしてほしいです。それが目標です。ただ洗うだけではなくハンカチも常に携帯するようにしましょう。また、ウイルスの危険性を伝えたり、手洗いの歌を流したり、その他の仕事にも全力で取り組みますので、どうか応援と協力をよろしくお願ひします。



コンピューターではなく、人間にしかできないこととは？ ～40年間で東大生と京大生が一番読んだ本『思考の整理学』～

この40年間で東京大学と京都大学の学生が最も多く読んだ本は、外山滋比古さんの書かれた『思考の整理学』だそうです。この本は、33個のエッセーからなりますが、40年前に書かれたとは思えないほど今の社会に当てはまります。昨年度の学校だよりの第44号で一つ目の話「グライダー」を掲載しましたが、今回は最後に書かれたエッセーを紹介し、この回では、「コンピューター」という題で人間とコンピューターとの関係や人の思考の在り方などが語られていますが、40年前の作品であることに改めて驚かされます。学習や勉強、思考方法がどうあるべきか考えさせられます。少し引用してみましょう。

「これまでの知的活動の中心は、記憶と再生にあった。記憶は人間にしかできない。大事なことを覚えておいて、必要な時に、思い出し、引き出してくるというのは、ただ人間のみでできることである。ずっとそう考えられてきた。その能力をすこしでも多くもっているのは、“優秀”な人間とされた。教育機関が、そういう人間の育成に力を注ぐのは当然の責務である。

これまでは、これに対して、深く考える必要がなかった。疑問を投げかけるものがなかったからである。ところが、ここ数十年来、しだいに大きく、記憶と再生の人的価値がゆらぎ始めた。

コンピューターという機械が出現したからである。コンピューターがその名の示すように計算をするだけなら、それほど、おどろくこともない。コンピューターは計算機の殻を脱皮すると、すこしずつだが人間頭脳の働きに近づき出した。

そのうちで、すでに確立しているのが、記憶と再生の機能である。これまで人間にしかできないとばかり思われていたことを、コンピューターがどんどん、いとも簡単に片付けてしまう。人間なら何十人、何百人もかかるような仕事を一台でこなしてしまうのを目の当たり見せつけられて、人間ははじめのうちこそ舌を巻いて感嘆していられた。

やがて、感心ばかりもしていられなくなり出したのである。人間とは、なんなのか、という反省がすこしずつ芽生えてきた。われわれは、これまでいっしょうけんめいに勉強して、コンピューターのようになることを目指したのであろうか。しかも、記憶、再生とも、人間は、とてもコンピューターにかなわない。」

何度も言うが、この本が書かれたのは40年も前で、まだWindowsもMacintoshもなかった時代である。外山さんの先見の明に圧倒されるとともに、わかっていたのになぜ手を打たなかったのだろうと思う。外山さんは最後に人間の思考の在り方を次のように提言してこの本を締めくくっている。

「これまでの学校教育は、記憶と再生を中心とした知的訓練を行ってきた。コンピューターがなかったからこそ、コンピューター的人間が社会で有用であった。学校だけの問題ではない。ひとりひとりの頭のはたらきをどう考えるか。思考とは何か。いちはやくコンピューターの普及を見たアメリカで、創造性の開発がやかましく言われ出したのは偶然ではない。人間が、真に人間らしくあるためには、機械の手の出ない、あるいは、出しにくいことができるようになってはならない。創造性こそ、そのもっとも大きなものである。

これからの人間は、機械やコンピューターのできない仕事をどれくらいよくできるかによって社会的有用性に違いが出てくることははっきりしている。どういうことが機械にはできないのか。

本当の人間を育てる教育ということ自体が、創造的である。

人間らしく生きて行くことは、人間にしかできない、という点ですぐれて創造的、独創的である。コンピューターがあらわれて、これからの人間はどう変化して行くであろうか。それを洞察するのは人間でなくてはできない。これこそまさに創造的思考である。」

かとう学園の教育目標は、「自立・協働・創造」です。3つ目のキーワードに「創造」を置いています。より良い創造を行うためには基盤となる知識と技能、基礎基本がなければなりません。「車より速く走れないから走るトレーニングはムダだ」とはならないし、「コンピューターに記憶で負けるから勉強は意味がない」ともなりません。むしろ小中時代はより多くの知識の習得を必要とします。神様でない限り無から創造することはできません。できるだけ知識基盤が多い方が創造に有利であると考えます。そして、大切なことは習得した知識や技能をどう活用するか、どう新しいものを作り出す創造へとつなげるかということです。これからも、かとう学園ではより良い創造を可能とする教育活動の充実を図りたいと思います。

